

みずほオートリース通信

2024年 9月号

炎天下の車内はキケン！

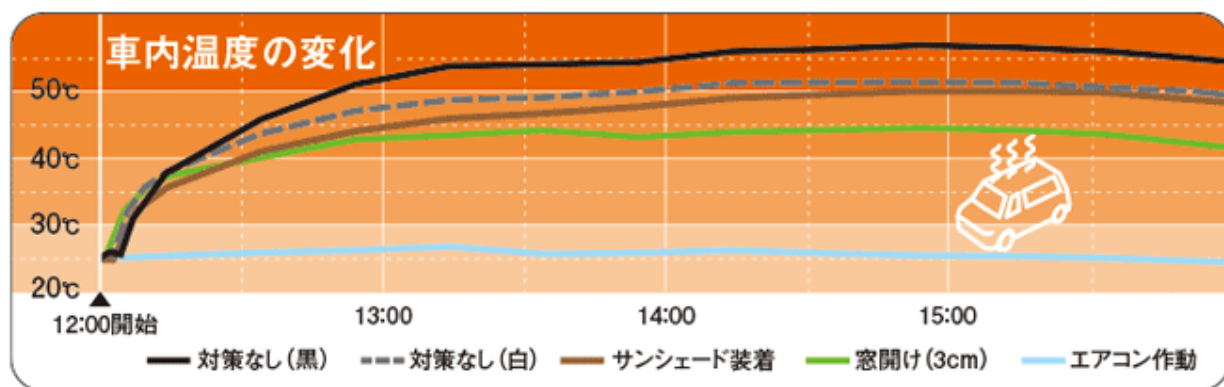
今年の夏の気温は全国的に平年より高く、観測史上最も暑かった昨年を上回る暑さとなっております。9月になってもこの暑さはまだ続くとみられ、熱中症などに十分な注意が必要です。

夏の日差しが強いなか、青空駐車場に車を停めているとダッシュボード付近の気温は70度以上になることもあるようです。今回は炎天下での車内の危険性について紹介します。



車内温度上昇の特徴

一般社団法人日本自動車連盟（JAF）は炎天下での車内温度上昇についてテストを行いました。8月の晴天で外気温は35度の状況下、昼12時から16時の4時間、車内温度を測定。窓を閉め切った車両（車体色：黒）では、エンジン停止後わずか30分（12時30分頃）で車内温度は45度を記録。その後の上昇を続け、15時頃には55度を超える結果となりました。



画像：JAF クルマ何でも質問箱 晴天下（炎天下）のクルマの室内はどのくらい温度が高くなりますか？夏編より一部引用 <https://jaf.or.jp/common/kuruma-qa/category-trouble/subcategory-prevention/faq250>

高温の車内は大人でも危険

高温の車内では、短時間で脱水症状や熱中症を招く恐れがあり、場合によっては命を落とす危険性もあります。フロントガラスの前面に覆うサンシェードを使用した場合でも、直射日光を遮る効果は高いものの温度抑制効果はあまり望めないようです。「子供が寝ているから」「すぐに戻るから」など、たとえ数分間だとしても、また、エアコンがついていたとしても子供がエアコンを止めてしまったり、窓ガラスから差し込む直射日光などで身体が熱せられるなどのリスクがありますので、車内に子供を残すことは絶対に止めましょう。

また、加齢による体力の低下した高齢者も体温調整機能が低下していることもあるため、子供同様に非常に危険です。

車内に置きっぱなしにしていると危険なもの

炎天下での車内において、おきっぱなしにしていると大変危険なものがあります。

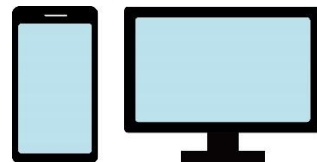
①スプレー缶

⇒スプレー缶には燃えやすいガスが充填されており、高温下で放置すると破裂や爆発する危険性があります。



②パソコン・携帯電話・電池（リチウムイオン電池）

⇒携帯電話やパソコンに内蔵されているリチウムイオン電池も高温化では最悪の場合爆発する危険性があります。電池が無事でも液晶や電子機器も熱に弱いので注意が必要です。



③ガスライター

⇒高温化では、ライターも破裂する可能性もあり、破裂しガスが車内に広がると一気に燃え広がる恐れがあります。

④アルコール消毒液

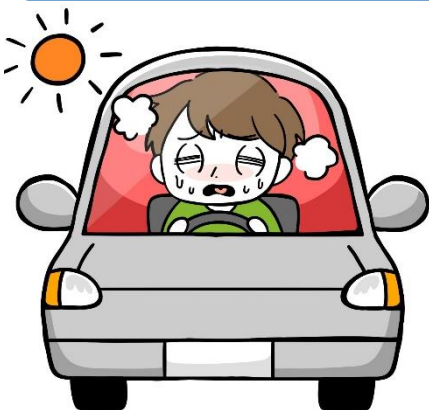
⇒「新たな生活様式」として、運転する前に感染予防として、ハンドルなどを消毒する方もいるかと思いますが、しかし、アルコール消毒液を車内に常備するのは非常に危険で、静電気などの小さな火種でも引火する危険性があります。

⑤ペットボトルの飲料

⇒密閉されたペットボトルの容器は、高温で内圧が高まり、変形・膨張し、やがて破裂する可能性があります。また、ペットボトルを通じて日光が1点集中し発火する「収れん火災」による車両火災の報告もあります。



運転中も熱中症には注意が必要



運転中も窓の外からの直射日光やエアコンによる乾燥によって脱水症状から、熱中症になる可能性があります。

運転中のめまいなどは非常に危険なので、水分補給と休憩をとるようにしましょう。

熱中症かなと思ったら

軽い頭痛や疲労感など比較的症状が軽度の場合、ひとまず水分をとって涼しい場所で十分に休息をとりましょう。自宅が近い場合は速やかに帰宅して休みましょう。

これくらい大丈夫と思って運転を続けていると、いつの間にか平衡感覚がおかしくなったり、強い頭痛や嘔吐、意識がもうろうとするなどの重度の症状がでてしまい、事故につながってしまうため、絶対に無理はしないようにしましょう。

出典：下記ウェブサイトを参照し、一部引用のうえ当社で作成

・一般社団法人日本自動車連盟（J A F）クルマ何でも質問箱 晴天下(炎天下)のクルマの室内はどのくらい温度が高くなりますか？夏編

<https://jaf.or.jp/common/kuruma-qa/category-trouble/subcategory-prevention/faq250>

・いわき市消防本部 真夏の炎天下 車内に置きっぱなしは危険です！<https://www.city.iwaki.lg.jp/www/contents/1658796267826/index.html>

・インズウェブ 自動車保険コラム 車の熱中症対策は？運転中も油断大敵！<https://www.insweb.co.jp/car/column/carhyperthermia.html>

運転中に体調不良になったり、不安を感じたりしたら、クルマをすぐに路肩に止めて様子を見ましょう。
くれぐれも無理はしないよう、常に安全運転を心がけましょう。

みずほオートリース株式会社